

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391400096		
法人名	有限会社サン		
事業所名	グループホーム虹色		
所在地	愛知県名古屋市長区桶狭間北三丁目106番地		
自己評価作成日	平成30年12月12日	評価結果市町村受理日	平成31年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JlgyosvoCd=2391400096-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市長区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成31年1月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム虹色は母体組織が病院なので、介護における医療面でのケアが充実していると考えています。特に精神疾患を併せ持つ認知症の方への対応が充実しています。人工透析をされている方にも、隣接する協力医療機関である「おけはざまクリニック」で透析を受けていただけますし、日常の健診や定期受診も受けていただけます。また職員の教育にも力を入れており、認知症、拘束、虐待等の講習や勉強会を独自に開催したり、セミナーや研修にも参加出来る環境を積極的に作っています。隣接する関連施設と連携し、ボランティアによる演奏会や色々な催し物を共催し楽しんでいます。又、緊急時の対応も協力し合える体制にあり、訓練等も合同で行っております。高齢者特有の疾患や介護に関する市民講座を開催し、地域の皆様に多数の参加を頂いており、今後も地域に密着したサービスの提供を実施していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の方との交流については、運営法人の事務局や関連事業所とも連携しながら行われているが、ホームでも地域で行われている行事に参加したり、ボランティアの方や中学生の受け入れが行われており、利用者との交流の機会がつけられている。職員研修の取り組みについても、運営法人全体で実施しており、関連事業所間での職員間での交流も行いながら事例等の検討を行っていることで、職員の資質向上につなげる取り組みが行われている。日常的にも1ユニットのホームである利点を活かしながら、日常的な職員間での情報交換を通じた業務改善等の取り組みが行われている。また、介護計画についても、利用者一人ひとりの細かな状況等を把握しながらモニタリングを実施していることで、利用者の意向や状況等に合わせて介護計画を作成する取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を事務所内に掲示しており、毎朝の申し送りのあと理念を唱和している。	ホーム開設に合わせて、ホーム名から考えた独自の理念をつくっており、毎日の朝礼の時間に職員間での唱和が行われている。また、理念に基づいた支援が行われるように、職員間での意見交換も行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣公園での盆踊りに参加したり小学校の運動会への招待があったりなど地域との交流がある。また近所の人とは日々挨拶したりしている。	地域の方との交流については、運営法人の関連事業所とも連携しながら行われている。ホームでも、地域で行われている行事に参加したり、中学生の職場体験の受け入れ等の取り組みが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に市民講座を開いて、認知症の勉強会に地域住民の参加があり、施設紹介や相談も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回開催している。活動内容の報告や勉強会を行っており、またそこで出た意見をサービスの向上に活かしている。	会議については、運営法人の関連事業所と連携しながら開催しており、出席者に運営法人全体の取り組みを知ってもらう機会にもつながっている。また、会議を通じて、様々な勉強会等を実施する取り組みも行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営法人の事務局が、積極的に市の介護保険課や地域包括支援センターとの情報交換を行っている。	市の担当部署との情報交換等については、運営法人の事務局を通じて行われているが、市の研修会等にはホームからも職員が参加するように取り組んでいる。また、地域包括支援センターとの情報交換等の機会もつくられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を施設内に掲示し意識を高め、外部研修に参加したり合同会議などで研修を行い理解を深めている。	身体拘束を行わない取り組みについては、運営法人全体で行われており、定期的な検討会議や職員研修が行われている。ホームでも出入り口に施錠を行わない支援に取り組んでおり、職員間での利用者の見守りが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	合同会議の勉強会に参加して、職員間で注意しあい、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見制度を活用されていた利用者様があった。今後も活用できる場面があれば役立てたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不安、疑問がないよう利用者様や家族にしっかりと説明し納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置はもちろん、面会時にはご家族に声かけ、意見や要望等に耳を傾けるよう心掛けている。また苦情ノートを作成し利用者様からの苦情や相談など随時対応し改善を図っている。	ホームで開催している行事の際には、家族にも案内を行っており、交流の機会につなげている。家族からの要望等については、内容にも合わせて管理者や法人事務局での対応が行われている。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月フロアーミーティングを行っており、そこで出た意見や提案は管理者会議、合同会議に反映させている。	毎月のホーム職員間での定期的な会議の他にも、日常的な情報交換の取り組みが行われている。管理者が把握した職員からの意見等を運営法人の事務局や幹部会議に報告しており、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの個々の能力を把握し実績に応じた賞与査定をしている。また勤務異動の希望も取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフは、経験、能力に応じた研修へ参加する機会があり、またその内容を合同会議で報告し情報を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などの参加で同業者と意見、情報交換を行い、より良い介護の提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、ケアマネがゆっくり時間をかけ傾聴し不安に思っている事を見つけ、その人に合ったサービスを計画している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人を交えての話し合いとご家族だけとの話し合いの機会を作って要望などを伺っている。アセスメントに重点を置いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族が一番望んでいる事を引き出せるよう傾聴の時間を多くとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は積極的に参加して頂きクッキング、配膳、洗濯物干しなどご利用者同士で行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月の便りで行事のお知らせをして参加して頂いたり、面会時には必要としている情報をお話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆やお正月など自宅で過ごしたり、自宅に帰れなくてもご家族と食事を楽しめたりしている。	利用者の中には、入居前からの関係の方がホームに訪問する等、馴染みの関係の方との交流が行われている。また、家族との外出の機会がつくられており、食事や買い物等の他にも、時には自宅に戻り家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフがご利用者様の性格、嗜好などを把握し、他の利用者様といい関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族が来所されて、近況をお話ししたり関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話が困難な利用者様でも、色々なコミュニケーションを図り、表情やしぐさ等で見極めるよう努めている。	当ホームは、1ユニットである利点も活かしながら、日常的に職員間での情報交換が行われており、利用者に関する気付き等が日常の支援につながるような取り組みが行われている。また、定期的なアセスメントの実施も行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを活用し、今までの暮らし方や考え方に沿って支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、申し送り、連絡帳で個々の状態を把握しチームケアに取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやフロアミーティング、担当者との意見交換したりご本人、ご家族とも話し合い介護計画を作っている。また変化時には介護計画を変更している。	介護計画については、6か月での見直しが行われており、変化に合わせた見直しも行われている。また、日常的に介護計画の内容に関するチェックを行い、定期的実施状況を集計しながら、根拠に基づいたモニタリングの実施が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、連絡帳などに気づいたこと、情報を記入し職員同士で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望や状態に応じて、随時見直しスタッフで話し合い検討し、医療関係とも連携をとり柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の夏祭り、敬老会に参加したり、理美容出張や移動図書も利用している。買い物の支援や季節ごとの行事なども楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	要望があればかかりつけ医の受診を支援している。希望がない場合は協力医療機関での受信を支援している。	運営法人の母体が医療機関である利点を活かしながら、協力医による定期的な訪問診療や随時の受診対応等が行われている。また、ホームに看護職員が勤務しており、利用者の健康チェックや医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師、訪問看護で状態の変化や異常などに対し適切な対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはサマリーを活用している。お見舞いなどで面会に行き、ご家族、病院側との情報交換や連絡を密にして、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合の対応方針」の同意書を頂いており、ターミナルケアをチームで支援できるよう取り組みが行われている。	身体状態が重くなった方もホームでの生活を継続することができるように、医療面での支援を含めた職員間で連携した取り組みが行われている。家族との話し合いを進めながら、ホームで支援可能な内容の話し合いが行われている。	母体でもある医療機関の医師が変更になり、医療面での支援についても新たな対応も考えられる。運営法人での検討も重ねながら、利用者の看取り支援にもつながることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	合同会議でAED、心肺蘇生法の勉強会が定期的に行われており、実践力が身につくよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練を行っており、日頃からご利用者様、スタッフの意識を高めている。	ホームでは毎月を基本に避難訓練を実施しており、併設のデイサービスとの合同の訓練や夜間を想定したホーム単独の訓練も実施している。地域で行われている訓練には、関連事業所と連携しながら参加している。水や食料等の備蓄品の確保も行われている。	夜間については、併設事業所ね職員がいなくなることもあるため、ホームでの継続した取り組みに期待したい。また、関連事業所とも連携した備蓄品の確保にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人にあった声掛けをするよう心掛けている。	ホームの取り組みとして、職員のあるべき姿勢等を記載した貼り紙を掲示しており、職員が申し送り時等を通じて、日常的に意識する取り組みが行われている。また、運営法人を通じた接遇に関する職員研修の取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを大切にじっくり時間をかけ希望を聞くよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や状態を考えその人のペースで生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一度、訪問理美容があり、ご本人の希望に沿って、パーマやカラーもされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に一回はクッキング作りをして利用者様、職員と一緒に切ったり味付けしたりして支援している。	食事は、外部業者からの提供を基本としているが、週1回の間隔で利用者と職員が調理を行う取り組みが行われている。週1回のおやつ作りや行事食等も行われている。身体状態に合わせた食事形態の提供や、食事の際には職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回食事量、水分量を記録し、一人ひとりに対応した食事形状、食事量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者様に合わせた口腔ケアを行っています。また週一回訪問歯科を利用しアドバイスを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握してトイレ誘導をして、紙パンツの使用を減らすよう支援している。	利用者全員の排泄記録を残している他にも、日常的にも職員間での情報交換が行われており、一人ひとりに合わせた排泄支援が行われている。また、医療面での連携も行いながら、排泄状態の維持、改善につなげる取り組みも行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて確認を行い、食事・水分はもちろん適度な運動を行ったり、お薬で調整をしたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴順はローテーションを取り入れ体調面に注意し入浴剤を使ったりして柔軟に対応している。	月曜日から土曜日の間で利用者が定期的に入浴できるように支援が行われており、利用者の希望に合わせた対応も行われている。利用者の身体状態に合わせた職員複数での対応も行われている。また、季節に合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内散歩を取り入れ日中の活動量が増やし、安眠できるよう支援している。必要な方には休息をとって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況は職員がわかるようファイルされている。誤薬・飲み忘れのないよう確認作業を二重に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じ、食事の配膳、号令、メニュー書きをして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	年間行事にて外出、外食に取り組んでいる。日頃散歩で近くの公園に出かけたり買い物に同行したりしている。	日常的な散歩の他にも、関連事業所での行事への参加や近隣にある医療機関への受診等、利用者の外出の機会にもつながっている。また、季節等に合わせた外出行事の取り組みや利用者の希望等に対応した外出の取り組みも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設でお金の管理をしていますが、自己管理できる利用者様には買い物などで支払いが出来る環境作りをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ、電話や手紙のやりとりが出来るように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すため毎月壁の飾りを変えたりお出かけイベントの写真を飾ったり利用者様と一緒にやっている。	ホームのリビングが建物の2階に開設されていることで、リビングは採光に優れた生活環境でもある。リビング内は落ち着いた雰囲気となっているが、壁面には行事等に関する写真や利用者の作品等の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席で会話をされたり、TVを見られたり各々自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの家具や馴染みの寝具を使っていたりしている。居室には家族写真、自己作品を飾り、居心地よく過ごせるよう支援している。	居室については、利用者や家族の意向にも合わせた家具類や馴染みの物の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、家族の写真や自身の作品を掲示する等、好みに合わせた対応も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の居室のネームプレートには写真を貼り、浴室には暖簾、トイレに関しては場所を誘導する貼り紙や使用中の看板をかけた安心して生活していただけるよう支援している。		